



Newsletter

vol.46

「ぴあ・かもみーる」日記②●
ボランティアスタッフ養成講座●



パオの
現 いま 在

「ぴあ・かもみーる」日記②

ここに書かせていただくのは初めてになります。

私は、弁護士4年目になりますが、もともと虐待から子どもを守る活動をしたいなあと思っていたところパオの存在を知り、パートナー弁護士（パオでは、「ぴあ・かもみーる」や「丘のいえ」に入所した子どもたちそれぞれに男女2人の弁護士が伴走します）として現在活動しております。

活動を始めてから2年半ほどになりますが、子どもとかかわる中でいろんなことを気づかせてもらい自分が成長させてもらったり、担当する子が大人になっていく様子を見ることができたりして、楽しく活動させてもらっています。

私がパートナー弁護士として2人目にかかわった子は、2年くらい前に「丘のいえ」（パオのシェルター現在休止中）に入った子でした。会ったときの第1印象は、おとなしい子、でした。幼少期から虐待を受けて重いトラウマを抱えた子で、フラッシュバックが起きたり、リストカットなどの自傷行為があったりしました。夜間に泣きながら電話があることもありました。

これまでちゃんとしたトラウマ治療は受けていなかったのですが、入院してトラウマの治療をすることになりました。その子は頑張ってつらい治療を続けました。半年ほど入院した後、「ぴあ・かも」に入りました。信頼できる児童精神科の医師が治療をしてくれたおかげで、その頃には日常生活ができるくらいになっていました。

「ぴあ・かも」でしばらく生活している中で、付き合っていた彼氏と結婚がしたいということで、再び入院して体調を整えた後、彼氏との同居生活を開始し

ました。同居を始めた当初は家事を頑張っている、バイトを始めると言っており、うまくいってるのかなと思っていたのですが、彼との関係が悪くなり家出をすることが増えました。友達のところに行ったり入院したり、別れるのかと思えばまた戻ったりと、くっついたり離れたたりしています。そのたびに、彼との関係をどうしたらよいかと相談を受けたり、病院の入退院に付き添ったりしています。

まだまだ安定した生活には至っていませんが、治療のおかげで最初に会ったときよりも精神的に落ち着いてきたなと感じています。また、初めに会ったときはいい子でいようと猫をかぶっていたようですが、徐々に自分の素が出せるようになってきて、自分で考えてこうしたい、ああしたいといったことが言えるようになってきました。その子にはパートナー弁護士が3人ついていますが、うまく使い分けて頼ってきてくれます。

その子が言ってくれた「丘のいえのときにパートナー弁護士がいてくれてよかった」という言葉はすごいうれしい言葉です。これからも本人が必要なときに必要な支援ができればいいなと思っています。

（弁護士M）

